第 31 回委員会　議事メモ

開催日時：平成 16 年 7 月 29 日（木）16：00～19：00
場　　所：みやこめっせ　地下１階第１展示場
参加者数：委員 32 名、河川管理者（指定席）30 名、傍聴者 272 名

１．開会

２．議事

注）　発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。 長）：委員長　リ）：リーダー　委）：その他委員　河）：河川管理者 資料についてはホームページを参照して下さい。

①状況報告

庶務より、資料１－１「前回委員会（2004.6.22）以降の状況報告」を用いて状況報告がなされた。

②新委員会に向けた体制づくりについて

委員長より、資料２－１「新委員会の枠組みについて」を用いて、新委員会の目的と構成、任期について説明があった。

その後、近畿地方整備局より、資料２－２「平成 17 年２月からの淀川水系流域委員会の委員選定について」を用いて、委員の選出方法について説明があった。

長）流域委員会は河川整備計画に設置することが位置づけられている。その任務として、「淀川水系流域委員会の今後の任務について（要請）」の中で、整備計画の内容の進捗の点検に当たって意見を述べる、計画の変更あるいは関係住民の意見の反映方法について意見を述べる等の５項目があげられている。

今後の流域委員会の構成については 24 名程度とし、工事実施の進捗状況の点検のやりやすさを考慮し、事務所単位の部会を４つ設ける。「任期は 2 年とし、再任を妨げない」が「再任は 2 回を限度とする」。委員の選出は、「河川管理者が、委員を選出する」。

河）この流域委員会を立ち上げたときと同様の方法で行う。すなわち、委員候補推薦委員会を設置し、委員候補を推薦していただく。推薦委員会のメンバーについては、流域委員会を立ち上げるときに設けた準備委員会のメンバー４名に１名を追加する。追加の１名は、今後の流域委員会が事業評価監視の役割もかねることから、この視点から意見をいただけるよう近畿地方整備局の事業評価監視委員会の委員長に加わっていただく。本年末までに委員候補の推薦をいただき、来年１月末までに新しい委員を決める。

③河川整備計画基礎案に係る平成16年度事業の進捗の点検について

河川管理者より、資料３「河川整備計画基礎案に係る平成16年度事業の進捗の点検について」を用いて、堤防強化委員会、河川レンジャー、水害に強い地域づくり協議会等の状況について報告があった。

河）河川管理者にて進捗の点検を行っている。各地域に関するものは各地域部会で報告することとし、ここでは地域共通のもの等を代表的なものに限って報告する。

「堤防強化委員会」では、脆弱で安全性が低い堤防について、浸透・浸食に対する堤防強化に関する技術的検討を行っている。木津川については、堤防にできるだけ水を入れず、入った水はできるだけ早く抜けるようにすることを基本的考え方として、川表側の断面の拡大、難透水性材料を用いた表面処理、ドレーン工法の適用、かごマットの適用等を検討している。桂川は、緊急的に対策を講じる必要はないという結果が得られた。また、宇治川では、川裏の断面の拡大を検討している。淀川本川は、断面の拡大、難透水性材料による表面処理を考えている。猪名川は、護岸処理、ドレーン工法、かごマット等を検討している。今後は、効果とその持続、技術的発展への寄与の視点からモニタリングを実施する。

「河川レンジャー」は、流域住民と河川管理者の介添え役を育てるという取組みである。現在、懇談会を設置し、河川レンジャーの活動について意見をいただいている。今後は、レンジャーの枠組み、例えば任命、報酬、費用等について議論を進めたい。

「水害に強い地域づくり協議会」については、猪名川では既存の協議会活動を基礎とした展開を進めており、木津川では県や市町の方による勉強会等を進めている。また、琵琶湖ではモデル検討地区を設け関係自治体と連携してハザードマップ作成など洪水氾濫時の被害をできるだけ軽減するための地域整備の検討を始めている。

「河川保全利用委員会」については、琵琶湖では準備会を設置し委員会の役割について検討した。その結果、委員会では、保全利用に関する基本理念を定め、占用についてのガイドラインを整備し、これに基づき申請・審査を行おうとしている。

「琵琶湖の水位低下抑制のための取組み」としては、現在、琵琶湖の制限水位を洪水に備えて-20㎝に下げているが、これ以上の水位低下は生物にとって好ましくないだろうという考えからいくつかの取組みを始めている。水需要を抑えるための節水PRや瀬田川洗堰の弾力的な運用、淀川大堰でのフラッシュ放流の早期運用、関係機関の情報共有の強化等に取組んでいる。

委）「堤防強化委員会」での検討は、在来の工法の範疇内にとどまっている。今後の堤防補強について、これまでの常識を捨てた見地からの検討を切に望む。

委）住民として日常的に川と付き合う、川と親しむといった視点にも留意した検討を期待する。

委）堤防は非常に脆弱な地盤の上に構築されていることが改めてわかった。堤防の本体だけではなくて堤外側と堤内側も調査が必要である。

←河）そうした考えにより、実際に行っている。

委）十分ではないまでも市民団体で環境調査を実施しているところもある。情報交換を進めて欲しい。

＜休憩＞

④ダムワーキンググループについて

今本リーダーより、資料４－１「ダムＷＧの概要および活動状況」を用いて、ダムＷＧの設置経過、概要、体制等について説明があった。また、既に開催されたＷＧについて、リーダーから、過去３回のダムＷＧでは議論にいたるまでの十分な説明がなされていないとの総括があった。

続いて、近畿地方整備局より資料４－３～４を用いて、ダムに関する説明会等の予定および５ダムに関する目的と想定される効果について説明があった。

リ）ダムワーキングは３回実施。１～２回目は河川管理者が行ってきた調査の結果説明が主で、３回目からは代替案の説明が行われている。ダムワーキングは、関連の大きい丹生ダム、大戸川ダム、天瀬ダム再開発と川上ダム、余野川ダムの３グループに分けた。これまでの印象では、河川管理者から必ずしもわれわれの期待にこたえるほどの説明はなされていない。また、１～２回目は、日程、会場等の関係で一般傍聴者に連絡する余裕がなかったが、第３回目からは一般傍聴者に参加いただいている。

河）流域委員会への報告、説明以外にも住民説明会などの様々な活動を行っている。

委）これらの会は傍聴可能か。会議の結果等の情報は早く発信して欲しい。

←河）傍聴は可能である。

委）説明会での河川管理者の説明のスタンスはどのようなものか。河川管理者として、ダムに対してどういう立場であると説明しているのか。

←河）流域委員会に対する説明と同じものである。

委）内容的に専門的なものはどうしているのか。

←河）なるべくかみ砕いた形で説明するよう努力している。

委）第２回ワーキングの結果報告にて、「琵琶湖の水位操作の問題を解決しないといけないのではないか」という意見に対して、「水位の前提を変えると、様々なものが白紙となる。見直す必要があれば議論すべきと考えるが、それまでの必要性はないと考えている」とある。水位操作は、基本的に見直すことなく、単に調整することでクリアしていこうということか。

←河）現在検討しているベースはこれまで積み上げてきたものだ、という意味である。前提となるベースについて言及したものである。

委）水位操作ではなく水位をいかに決めるかがポイントである。

委）決まっていることは変えにくい、ということではなく柔軟な検討を望む。

委）資料についてであるが、備考欄に、丹生ダムでは不特定利水に関して、また、大戸川では日吉ダムとの振り替えについて記載して欲しい。川上ダム、余野川ダムについてもダムワーキングでかなり説明がなされているので、それらに言及しておくべきである。

３．一般傍聴者からの意見聴取

これまでの議論や資料等について、一般傍聴者から意見を聴取した。

・　河川管理者に対して住民の不信感を募らせる３つの問題を指摘したい。対話集会の参加者構成、木津川流域の浸水被害解消に向けた記述、川上ダムの一部で工事が進行している事態などである。
　←河）対話集会はファシリテーターの考えによりハードルを低くして多くの方に参加していただいている。また、木津川流域の整備は淀川水系全体の中で考えている。必要な生活道路等を整備することは流域委員会でも承認いただいている。
・　宇治川の塔の島周辺の河川掘削など流域委員会の意見者や提言などが軽視されているのではないか。基礎案では「掘削時期を検討する」とあるが、意見書等を踏まえれば、掘削そのものの是非を検討するべきである。
　←長）軽視されているとは考えない。
・　資料４－４について、治水に関して、「効果があると考えられる事項」で一部は説明があったが、他の代替案についても十分検討して欲しい。利水に関しては、現時点での状況を総合的に検討して欲しい。
・　滋賀県による渇水シミュレーションに関する質問と回答・再質問、および琵琶湖環境改善容量の不要性について、高時川の瀬切れ問題解決に向けた琵琶湖逆水施設の利用、大戸川ダムにおける土砂災害など、４つの問題に関する意見書を提出しているので参考にして欲しい。
・　原則ダムは作らないという立場で検討するのであれば、ダムを作らないための代替案があるかを速やかに検討して欲しい。調査の目的を明らかにするとともに、ダムなしという視点から調査を進めて欲しい。
・余野川ダムに関する住民説明会を箕面市でも開催して欲しい。また、氾濫区域内の被害想定に関しては、住民が十分納得できる数字を示して欲しい。

４．その他

委員長より、資料５「今後のスケジュール」を用いて、８月開催の会議について説明があった。また、近畿地方整備局より速報「平成 16 年７月福井豪雨災害資料」を用いて福井県の集中豪雨について説明があった。

以　上